

第5章 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

評価の視点2：下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

本学では、『教育の目的は、人に愛される人、人に信頼される人、人に尊敬される人を育成することにある』という本学の建学の精神に即した人材として成長が期待できる人。社会で求められる社会人基礎力を養成するにあたり、幅広い教養を持ち、主体的に行動し社会に貢献したいという意欲のある人。社会的・職業的自立のために汎用的能力を身に付け、将来にわたって真の教養人および専門職業人として活躍する熱意のある人」を学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）としており、本学の理念・目的及び将来像を踏まえて策定された学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて適切に設定されている。公表の方法としては、大学ホームページ、入学試験要項で明示している（資料2-10【ウェブ】、1-6）。

高等教育機関としてふさわしいアドミッション・ポリシーを策定するため、本学の理念・目的に照らして適切に設定することとしている。近年の博士後期課程設置におけるアドミッション・ポリシーの策定では、博士後期課程設置準備室（構成メンバーは、研究科長、専攻長、大学院教員、事務職員）を設置し、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき必要な入学者選抜方法について、本学の理念・目的に照らして設定している。その後、学長に報告し、理事会で審議した結果、承認されている。

<各学部・研究科単位のアドミッション・ポリシー>

看護学部では、「人々の生命や健康に対して強い関心を持ち、看護の専門職者を目指す意思がある人。生涯にわたり自己研鑽を重ね、幅広い知識を身につけたいという好奇心旺盛な人、自ら学ぶ意欲を持つ人。他者と協力して行動できる人」をアドミッション・ポリシーとしている。

教育学部（通学課程）では、「本学部に対し非常に強い入学意思を持つ者で、小学校教諭、幼稚園教諭、養護教諭、保育士を目指す人。豊かな感性を持ち、積極的にこどもとのコミュニケーションを図る意欲のある人。他人を思いやる心と、自ら社会の発展に寄与するという強い意志のある人」をアドミッション・ポリシーとしている。

教育学部（通信教育課程）では、「教育専門職になる強い意欲と確固たる意志を持ち、教育者として社会に貢献するという向上心を持ち、幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭、保育

士を目指す人。教育に関する幅広い分野に興味を持ち、将来その分野で活躍する意欲のある人。図書館司書、学校図書館司書教諭、学芸員として地域社会に貢献できる人材として活躍する意欲のある人」をアドミッション・ポリシーとしている。

看護学研究科博士前期課程では、「人間に対する深い洞察力と高い倫理観をもち、看護の理論と科学的な根拠に基づき個々のニーズや生活及び社会の変化から生じた健康課題を明らかにしたうえで、その課題を解決できる能力を備え、人々の生活の場や看護実践の場において、教育力、指導力、研究能力を兼ね備えた社会に貢献できる高度な看護実践専門職業人を養成するために、以下に挙げるような学生を受け入れる。① 看護学に関する知識、技術、精神、倫理を積極的・主体的に修得し、看護学の発展に寄与できる人 ② 看護に対する限らない関心と探究心をもち、労苦をいとわずに看護実践の向上に寄与できる人 ③ 保健、医療、福祉の諸問題に関心をもち、関連職者と協働して課題解決にあたる意欲のある人」をアドミッション・ポリシーとしている。

博士後期課程の教育課程では、「看護教育・研究者として、人々の健康と生活の支援を科学的に探究できる能力、看護学の発展のための研究を自立して行うことができる能力、次世代の看護職を育てる教育ができる能力を身につけた人材を育成するために、以下に該当する者を入学者として受け入れる。① 専門分野についての深い知識と応用力をもち、系統的・科学的に看護学を探究する能力を有する者 ② 人々の健康と生活に関する取り組むべき研究課題をもち、課題解決のための研究能力を有している者 ③ 看護教育・研究の発展に貢献する意欲をもつ者」をアドミッション・ポリシーとしている。

各学部・研究科の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、大学全体の方針を踏まえて適切に定めており、大学ホームページ、入学試験要項、学修便覧において明示し、社会に公表している（資料 2-10【ウェブ】）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点 1： 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
評価の視点 2： 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
評価の視点 3： 公正な入学者選抜の実施
評価の視点 4： 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学生募集方法及び入学者選抜制度については、学生の受け入れ方針に基づき、前年度の入試結果を検証し、志願者及び入学者の傾向を踏まえつつ、各学部・研究科の入試委員会と入学センターが連携し、教授会・研究科委員会を経て学長が決定している。

学士課程の学生募集方法については、主に以下の 7 項目が挙げられる。① 高校・予備校・塾

への訪問、②高校ガイダンスへの参加、③企業主催による会場型ガイダンスへの参加、④オープンキャンパスの実施、⑤本学ホームページ及び大学案内等の印刷物での情報提供、⑥受験雑誌・Web への出稿、⑦各種イベント参画時での本学 PR グッズ配布などである。入学センター職員が中心となって高校・予備校・塾訪問を行っており、2019 年度入試の訪問数は 1,156 校にのぼっている（資料 5-1）。学部紹介や入試説明を行い、高校や予備校・塾からの要望や高校生の動向を把握するための機会となっている。高校ガイダンスについては、高校側の要望に応じて説明を行っており、2019 年度入試には 115 校に参加した（資料 5-2）。高校生や保護者に対する企業企画の会場ガイダンスには、90 会場に参加した（資料 5-3）。文部科学省の 2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）によれば、18 歳人口が 2040 年には約 88 万人まで減少することが予測されていることから、高校訪問及び会場ガイダンスの参画については、県内に留まらず県外へ積極的に行っている。オープンキャンパスについては、2019 年度入試は 7 回実施し、高校生のみの来場者総数は延べ 1,149 名となっている（資料 5-4）。また、大学ホームページ、入試要項、各種リーフレット等の印刷物及び受験雑誌・Web 等で情報発信を行い、高校の終業式や地域のイベント等に合わせて大学の様々な情報を盛り込んだノベルティ・PR グッズを高校生に配布し、知名度の向上に努めている。

博士前期課程・後期課程の学生募集方法については、病院等の施設訪問、オープンキャンパスの実施、本学ホームページ及び大学案内等の印刷物での情報提供を行っている。

入学者選抜制度については、開学当初より、本学の大学教育を受けるにふさわしい適性・能力があるかについて様々な観点から判定することを目指し、入試方式の多元化に努めており、受験生に対して幅広い受験機会を提供している。学士課程の入学試験は、AO 入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般入試、センター試験利用入試、社会人入試、編入学試験（教育学部）、留学生入試（教育学部）がある。博士前期課程及び博士後期課程の入学試験は、一般選抜、社会人選抜がある。

AO 入学試験は、本学への入学を強く希望する者が出願できる入学試験で、小論文と面接により選考し可否を判定する。小論文では、読解力や表現力などの大学で学ぶための基礎力や思考力など、適性を判断する。

指定校推薦入学試験は、本学が特別に指定する高校または中等教育学校の学校長の推薦を受け、本学への入学が第一希望であることが条件とする入学試験で、調査書と面接により選考し可否を判定する。

公募制推薦入学試験は、本学が提示する出願基準を満たす者が出願できる公募型の推薦入学試験であり、国語、英語、数学（数学 I・A）の 3 科目から 2 科目を選択した試験と調査書から選考する。

一般入学試験は、大学入学資格を満たす者が出願できる入学試験である。学部及び日程により多少異なるが、国語・英語・数学（数学 I・A）・理科（生物・生物基礎）から 2 科目選択したものを評価して可否を判定する。

センター試験利用入学試験は、大学入試センター試験で本学が指定する教科・科目の学力試験に基づき合否を判定し、看護学部は外国語、国語、数学、理科のうち、3教科3科目を選択し、高得点の3教科3科目を合否判定し選考している。教育学部は全教科全科目のうち、高得点の2科目を合否判定し選考している。

社会人入学試験は、社会経験などのキャリアを活かし、小論文と面接による選考方法を採用している。編入学試験は、小論文と面接による選考方法を採用している。

留学生入学試験は、日本国以外の国籍を有するもので、作文と面接による選考方法を採用している。

教育学部（通信教育課程）は、建学の精神、学費、提出書類など、詳細な説明を記載した学生募集案内を入学希望者に対して送付し、入学志願書の提出を受け書類審査により、選抜を行っている。

研究科の一般選抜では、博士前期課程では英語及び看護専門科目（看護学全般の基礎知識）の筆記試験、面接試験による選考を行い、博士後期課程では英語、小論文、面接試験による選考を行っている。社会人選抜では、小論文試験及び面接試験で選考している。

入学者選抜実施のための体制については、入学試験に関する企画及び実施を円滑にするために、各学部は看護学部入試委員会及び教育学部入試委員会を置き、研究科は研究科委員会にて体制を整えている（資料2-18、2-31、5-5）。学士課程は、学長、副学長、各学部長、各学科長、入学センターにより入学試験実施本部が設置され、試験監督は各学部の教員が、事務の所管を入学センター職員が行っている。博士前期課程・後期課程は、学長、副学長、研究科長、専攻長、入学センターにより入学試験実施本部が設置され、試験監督は研究科の教員が、事務の所管を入学センター職員が行い、学部入学試験及び研究科入学試験については、公正かつ厳正に実施している。合格者の選抜は、厳正な採点に基づき、入試委員会及び研究科委員会の議を経て、公正かつ客観的に審議し、学長が最終的に合格者を決定している（資料5-6）。

障害等のある入学志願者への特別な対応として、入学試験においては特別な配慮を講じる旨を入学試験要項に明記し、受け入れ体制を整えている。2019年度入試では車椅子による受験者に対して、座席配慮等の対応を行っている（資料1-6）。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・編入学定員に対する編入学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程、専門職学位課程＞

・収容定員に対する在籍学生数比率

学士課程の入学定員に対する入学者数比率については、2019年度入学試験における大学全体の入学定員180名に対して、入学者数は191名であり、入学者数比率は1.06倍となっており、適切な入学定員を設定している。編入学定員に対する編入学生数比率については、2010年度より毎年10名の入学定員数を設けているが、在籍編入学生数は3名で、編入学収容定員20名に対する編入学生数比率は、0.15倍となっている。収容定員に対する在籍学生数比率（2019年5月1日現在）は、大学全体の収容定員740名に対して在籍学生数は620名となっており、0.84倍となっている。看護学部は開学以来、入学定員数を満たしているものの、教育学部においては2013年度入学試験以降、入学定員数は満たなかったが、2019年度入学試験においては志願者増加により入学定員を満たしており、2020年度入学試験においては、2020年2月中旬時点で手続状況が入学定員を満たしている。2年連続で入学定員を満たすことが明らかであり、2020年4月1日段階での在籍学生数の予測は670名となり、在籍学生数比率の予測は0.91倍となり、2年後には収容定員に達する見通しとなっている（資料5-7）。

収容定員に対する在籍学生数の未充足に関する対応としては、姫路大学の知名度向上のため、高校訪問の継続的な実施ならびに進学ガイダンスへの参加により、本学の志願者増加を図る。また、高大連携を締結し、高校生を対象とした出前授業や本学の魅力ある教員を紹介する機会を増やしていく。編入学生数の比率が低いことから、法人内の豊岡短期大学に本学の情報提供を密に行い、近隣の短期大学を中心にダイレクトメールを送付する等の対策を検討する。

博士前期課程における収容定員に対する在籍学生数比率（2019年5月1日現在）については、収容定員12名に対して在籍学生数は12名で、比率は1.00倍となっている。博士後期課程については、2019年度に入学定員3名、収容定員9名で開設し、初年度は志願者数7名、入学者数7名により、収容定員に対する在籍学生数比率は0.77倍となっている。

教育学部（通信教育課程）では、2019年4月入学生は正科生1年次入学生が72名、3年次入学生が100名、在学者数は正科生、科目等履修生を合わせ1,198名となっている。在籍学生数比率は、収容定員4,600名に対して在学者数497名（正科生のみ）で、10.8%となっている。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

評価の視点2：点検・評価結果に基づく改善・向上

各学部教授会及び入試委員会、研究科委員会において、入学定員数の継続的な確保及び在籍者数比率の是正のため、入学手続きの正確な分析を行い、改善に努めている。入学センターが在学生の出身高校別受験者数の推移、地域別受験者の推移に基づく地方試験会場の見直し等、過去の受験データを整備することで、各学部教授会及び入試委員会において、人員の確保及び歩留まり率を予測している。学部における志願者数の確保については、アドミッション・ポリシーに沿った学生の確保につながることを期待し、入試種別と入学後の履修状況の関連性について、データを整備し、追跡調査を積み重ねて活用していく必要がある。所管部署である入学センターを中心に、各学部・研究科にて PDCA 手法を用いて展開し、次年度以降は各学部入試委員会、教授会を経て、教育改善・内部質保証会議にて改善案を検討し、大学協議会に報告することで入学定員の確保の向上に向けた取り組みを行う。

(2) 長所・特色

多様な入試選抜方法を採用し、様々な能力を持った受験生を受け入れている。また、高校訪問、高校ガイダンス及び会場ガイダンスへの参加、オープンキャンパスの実施などによって、本学の知名度及び認知度の向上を図っている。

特に、オープンキャンパスについては、実施後には参加者アンケート結果から内容の見直しと改善を図り、次年度の参考としている。2017年度は受験対象者（原則、高校3年生。以下同様）の来場者数が243名、2018年度は受験対象者の来場者数が258名、2019年度は受験対象者の来場者数が403名と年々増加しており、志願者数増加につながっている。看護学部の志願者数は右肩上がりに伸びており、2017年度入試の志願者数が195名、2018年度入試の志願者数が206名、2019年度入試の志願者数が294名となっている。教育学部の志願者数は、オープンキャンパスのと連動により増加しており、2017年度入試の志願者数が59名、2018年度入試の志願者数が76名、2019年度入試の志願者数が153名となっている（資料5-7）。

博士後期課程では、障害児・者支援学分野は日本で唯一の分野であり、本学の特色であると言える。

(3) 問題点

- ・ 学士課程の収容定員に対する在籍学生数比率（2019年5月1日現在）は、0.84倍となっており、収容定員を満たしていない。
- ・ 学士課程における受験生確保のために、両学部で高校訪問計画を策定するなどの連携が取れていない。
- ・ 看護学部においては、兵庫県内に2019年度4月時点で15校の看護系大学があり、高校生にとっては魅力的な看護系大学の選択肢が多く存在する。さらに、我が国の経済状況の不透明感・少子化等の影響により、私立大学として入学者数の確保には課題が残る。適正かつ慎重な入学試験の選考・判定を組織的に行い、本学のアドミッション・ポリシーに基

づいた入学者の受け入れと定員確保及び管理をしていくことが重要である。

- ・教育学部においては、様々な入試方式を採用し、学力のみならず教育者としての適性を持った高校生を受け入れている反面、初等教育系の資格取得を目指す社会人及び短期大学からの編入生の受け入れが不十分である。編入学生の受け入れのために教員による短期大学の訪問を行い、同法人の短期大学以外からも入学生を受け入れられるよう取り組んでいく。
- ・博士前期課程・後期課程においては、学士課程卒業生の比率が少ないことから、卒業生に対しダイレクトメールを送るなど、卒業生の入学比率の向上に取り組んでいく。

(4) 全体のまとめ

本学の理念・目的に基づいたアドミッション・ポリシーを適切に定め、学生募集及び入学者選抜制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正かつ厳格に実施している。2019年5月1日現在の収容定員に対する在籍学生数比率については、博士前期・後期課程においては満たしているが、学士課程では0.84倍となっており収容定員を満たしていないため、学生確保には課題を残している。2020年度入学試験においては、2020年2月中旬時点で手続状況が入学定員を満たしている。2020年4月1日段階での在籍学生数の予測は670名となり、在籍学生数比率の予測は0.91倍となるため、2年後には収容定員に達する見通しである。次年度以降は各学部入試委員会、教授会を経て、教育改善・内部質保証会議にて改善案を検討し、大学協議会に報告することで入学定員の確保の向上に向けた取り組みを行う。